

いずみさの昔と今 第353回

「源永盛と藤原章致」

3月23日(日)に、冬季企画展「長滝庄」が終了しました。本展示に関する質問の中でも特に多かったのは、長滝庄の開発者である源永盛（みなもとのながもり）と、その流れを汲むとされる藤原章致（ふじわらのあきむね）との関係性についてです。そこで、今回はこの話を取り上げます。

鎌倉時代に作成された章致の申状（もうしじょう）によると、11・12世紀のうちに永盛の子孫を下司職（げししき）にするようにという命が出され、それを元に建久3（1192）年に九条兼実（くじょうかねみね）によって永盛の流れを汲む人物が権利を保証されたようです。その時の文書を章致は所持しており、証拠としてその写しを訴訟の場に提出しています。この主張の通りなら、源氏と藤原氏という異なる姓であるにも関わらず、永盛の系譜を引く存在として章致が位置付けられるのです。

源氏から藤原氏への改姓については、わずかに「日根野系図」に言及があります。この系図は江戸時代に日根野氏によって作成されたものですが、日根野氏の先祖筋に章致ら藤原氏が位置付けられて

います。ここでは、永盛・国季・国遠・基遠・光盛・遠綱・盛広・宗広・真如・致光・章致・致雅・致有・致秀という系譜が記されているのですが、冒頭に元は源姓だったが基遠の時に藤原姓に改めたと記載されているのです。しかし、この系図自体が後の時代の日根野氏の作為によるものであるため、改姓の話は必ずしも信頼がおけるものとは言えません。更に姓を変える事例は同時代ではあまり見られず、あとから取ってつけたような印象を受けます。とはいえ、この系図から読み取れる情報もあります。ここで注目したいのが、系図上に見える人物の通字（つうじ）です。通字とは、一族内で名前に使う共通の漢字一字のことで、致光から致秀までの五代にわたって、「致」を用いていることが分かります。ここからこの五代は血縁的なつながりがあるものと考えられます。章致のほかに致雅と致有も同時代の史料に名前が見えることから、この五代は実在した可能性が高いでしょう。そのため、少なくとも致光からの五代分は藤原氏の系図として比較的信頼のおけるものであり、と考えると、致光の先代に真如と

いう人物が位置付けられています。この人物の名前の横には「尼」と記載されており、女性であることが分かります。つまり、女性が一代相続したのち、それまでとは別の一族に受け継がれているように読み取れるのです。ここから、真如が「致」を通字とする藤原氏に嫁ぎ、それ以降その子孫が受け継いでいったことが推測できます。

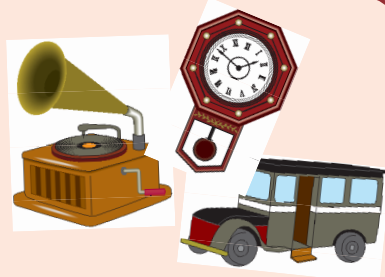
以上、源永盛と藤原章致の関係性について述べてきました。章致の主張が正しいとは限りませんが、永盛から章致に至るまでの正確な文献は存在しないため、ここまで述べてきたことはあくまでも推測の域を出ません。しかし、系図の情報から読み取る限り、源氏から藤原氏に姓が変わるタイミングは、基遠の時とするよりも、真如の時であったと考える方が自然なのではないでしょうか。

レイクアルスタープラザ・
カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）
開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

⑪駅前通り商店街の街灯すずらん灯



◀昭和28年の駅前商店街の様子。すずらん灯から街灯が変更されている。



▶南海泉佐野駅側から駅前通り商店街を撮影した現在の写真。街灯の下に駅前通りの看板がついている。



◀昭和5年に設置された駅前通り商店街のすずらん灯。昭和3年の昭和天皇の即位式を記念して、駅下がりの商店街の60mほどの間に、計15本のすずらん灯が互い違いに建てられた。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中！